

とよ

・「こんな時こそ一致団結」	1
・令和2年度 大分県小学校長会 研究計画	2
・九小協大分大会に向けて	4
・研究活動紹介	5
・先輩校長から	6
・令和2年度 小学校長会役員名簿	7

玖珠郡
東飯田小学校
校長
池部 義孝氏



「
竜門の滝
」



「こんな時こそ 一致団結」

大分県小学校長会
会長 野村 尚 生

政府が新型コロナウイルス感染症予防対策として全国一斉の臨時休校要請を令和2年3月3日に発出してから3か月余りがたとうとしています。令和元年度を締めくくる卒業式や修了式、また令和2年度のスタートに当たる始業式、入学式の持ち方等それぞれの郡市で取り組み方が異なりました。加えて子どもたちの自主性・自立性を育成する絶好の機会である特別活動や各種学校行事も中止とならざるを得ない状況にあります。ここにきて、全国に出されていた非常緊急事態宣言も徐々に解除され、学校再開の支部も出てきましたが、対策を十分に練り、児童の安全と健康を第一に考慮しながら学校生活を送るようにしなければなりません。

臨時休業間に、文部科学省から「新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業に関するガイドライン」「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について(通知)」「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開等に関するQ&A」等が出されました。これらを参考にしながら、実際に具体的にどうするべきなのかや新型

コロナウイルス感染拡大予防と児童への充実した指導を両立させるために、私たち現場に課せられている課題は底をつきません。

本来ならば、本年度は小学校では、新学習指導要領の全面実施の年で「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとする授業改善に取り組んでいるはずでした。そのために各学校では新学習指導要領の告示以降、教科ごとの評価の観点や改定内容についての研修を多く行い、準備してきました。そして昨年度は完全実施に向けた年間指導計画である教育課程が各学校で工夫を凝らしながら、校長の指導の下に作成されました。しかし先にも述べましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のための国策としての取組で、学校は新たな対応策を取りながら児童の「学びの保障」をしていかなければいけません。

加えて「教職員の働き方改革」「社会に開かれた教育課程の実現」「インクルーシブ教育の充実」等々、私たち校長に突き付けられている課題は、多岐にわたります。大分県小学校長会としては、このように山積する課題を、個々の学校での実践を還流し合い、また、課題解決に向けた方向性を話し合う中で、「児童の育成」、「職員の授業力向上」、「チーム学校としての在り方」を会員全員で共有し、実践を進めていきたいと考えます。

終わりにになりましたが一昨年度より取り組んでまいりました「第72回九州地区小学校長協議会研究大会大分大会」は誌上大会になりましたこと、改めて報告いたします。

とよ

・九小協大分大会（誌上開催）を終えて……………	1
・九小協大分大会のまとめ……………	2～3
・活力ある学校づくり……………	4～5
・学校紹介……………	6
・新任校長の決意……………	7
・雑感、編集後記……………	8

中津市 三郷小学校
校長
岸 原 宏 氏



「福沢旧居」



九小協大分大会 ＜誌上開催＞を終えて

大分県小学校長会
副会長 小 野 清 隆

新型コロナウイルス感染症拡大防止によって、様々な大会やイベントが中止または延期となりました。九小協大分大会も例外とはならず、大きく縮小して「大会要録」「運営要項」の作成を行っての誌上開催となりました。

参集しての大会開催とはなりませんでした。ここに至るまでに多くの苦労があったことは確かです。事務局会や実行委員会等において、一昨年度より少しずつ準備を行ってきました。実行委員の方々には、大会の全体会場及び分科会場となる各ホテルに足を運び、また「大会要録」「運営要項」の作成にもご尽力いただいたことに感謝しております。

今年度より新しく設定された全連小の主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す 小学校教育の推進」のもと、副主題を「心豊かでたくましく ともに生きるための力を育む 活力ある学校づくりを推進する校長の理念と指導性」としました。誌上開催となっても、紙面から伝わってくる各県の実践における熱意や工夫等から、それぞれの学校経営に役立てられるのではないかと思います。

九小協大分大会の「大会要録」には、九州各県から計18のレポートが寄せられました。新学習指導要領の重要

なキーワードである「社会に開かれた教育課程」をどう展開していくか、「つなぐ」ことを学校運営のキーワードにした実践、危機の場合の未然の対処等々、多くの実践から学べるものがあつたはず。一つ一つのレポートに目を通していただき、そこから感じ取ったことを、「自分だったらこう取り組もう」「自校においては、この方法がベストだ」等と自分の見解を持っていただければと思います。

さて、全国的に見ても各地域での大会や全連小京都大会もすべて誌上開催となりました。来年度の九小協福岡大会や全連小石川大会も参加人数を縮小しての開催を検討中です。毎年このような状況とならないにしても、自然災害や今回のようなウイルス感染症拡大によって、私たちの今後の取組にも、いろいろな視点からの工夫や改善が求められています。「活動を止める」ことなく、私たちは、何らかの模索をしていかなければなりません。そのことが、今回の九小協大分大会でも新たに覚えてきたところ。です。

様々な災害だけではなく、多くの面で予測困難な時代を迎えたことを日々実感します。そんな時代を生きるため、児童だけではなく教師である我々にも求められていることがあるはず。そして、学校のリーダーである校長として「何を」「どのように」マネジメントしていけばよいのかも問われています。「主体的」という修飾語は、我々校長をはじめとする教師にも当てはめなければなりません。「自分ならどうする！」という問いが突き付けられているような気さえます。

終わりにりましたが、これまでの取組に対しても感謝申し上げますとともに、大分県小学校長会のさらなる発展を願って、結びといたします。

とよ

・「ピンチをチャンスに」	1
・第2回研究部長会 講演・協議のまとめ	2～3
・全連小 京都大会のまとめ	4～5
・新任校長の1年	6
・今日的教育課題	7
・雑感・編集後記	8

宇佐市 北馬城小学校
校長 深町 勝幸氏



宇佐市院内町
「分寺（ぶじ）橋」



「ピンチをチャンスに」

大分県小学校長会
会長 野村 尚 生

例年、年度末の「とよ」巻頭言は、大分県小学校長会研究大会を開催していただいた支部の校長先生方、また参加され貴重な意見をいただいた校長先生方への感謝の言葉から始まります。しかし、今年度の第72回九州地区小学校長協議会研究大会大分大会は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、また、九州各地から参加される校長先生方に自校での感染拡大防止や児童の学びの保障する取組に注力いただく等の観点から、校長先生方の参集は求めず、誌上での開催とさせていただきました。適切な判断だと考えますが、これまでの準備を思うと、まさに断腸の思いであります。

臨時休業が発令された中、社会では学校そのものの存在価値の見直しと、授業の遅れの回復の問題がクローズアップされました。学校再開後は、学校教育とは単に授業により知識を学ぶだけではなく、様々な集団活動を行い、多様な他者と触れ合う中で様々な気づきが児童生徒を育てていくのだと改めて気づかされました。そして、家庭や地域の置かれている状況や環境によって生じる児童生徒の学びの差に戸惑いを感じたのも正直なことです。その解決の

ために政府が打ち出した政策の一つが「GIGAスクール構想」の前倒し実施です。その恩恵が大分県内各地に平等に広がることを願っています。一方、ICT環境が整備された場合でも、教師による対面指導は不可欠であり、「主体的で対話的な深い学び」のためにも児童同士のやりとりが必須であることに変わりありません。そのことは臨時休業が明けて、学校に戻ってきた児童の輝いた瞳によって証明されています。

今現在、新型コロナウイルス感染症との共生という考え方の中で、学校や校長会には何を求められているのかを追求し、何を遺産として残していくのか、何をどういう風に変えていくのかを問い直す時期に来ていると考えます。新型コロナウイルス感染症によって多大な打撃を被った方、現在も被害を被っている方々が社会には多くいらっしゃいます。学校や教育現場も同じです。しかし、だからこそ学校や校長会は「ピンチをチャンスに」していく姿勢が大切だと思います。普通に続くと思っていた日常が突然絶たれ、今まで当たり前だと思っていた日々の出来事の一つ一つがどんなに大切か思い知らされました。新学習指導要領の下、教育の新たな基軸と今回の学びで学校や県校長会会員の結びつきがますます強くなることを願います。

終わりにになりましたが、この1年間、本会の活動への参画、ご支援大変ありがとうございました。また、令和3年度くにさき大会の準備も着実に進んでいます。来年度もご支援よろしくお願いいたします。

とよ

・「つなぐ」教師の役割	1
・令和3年度 大分県小学校長会研究計画	2
・第61回大分県小学校長会研究大会くにさき大会について ..	4
・研究活動紹介	5
・先輩校長から	6
・令和3年度 大分県小学校長会役員	7
・令和3年度 郡市校長会研究部長(小学校)	8
・編集後記	8

杵築市立杵築小学校
校長
河野 邦房 氏



サ
ン
ド
イ
ッ
チ
型
城
下
町
杵
築
「
酢
屋
の
坂
」



「つなぐ」教師の役割

大分県小学校長会
会長 小 野 清 隆

令和3年度がスタートし、2ヶ月ほどが過ぎました。各校とも、学校の教育目標の実現に向け、日々邁進していることでしょう。

昨年度は九小協大分大会をはじめ、様々な大会や活動、行事等が、形を変えての開催となったことは、承知の通りです。そのような状況下でも、活動が後退することなくできたのは、各郡市の理事や研究部長の皆さんのおかげです。この場をかりてお礼申し上げます。

さて、コロナ禍の終息はまだまだ先の様相ですが、本年度は、大分県小学校長会の活動を従来の形に戻しているかなくてはなりません。とりわけ、11月に予定している「第61回大分県小学校長会研究大会くにさき大会」の成功は言うまでもなく、本年度の活動の中心と言えます。会員全員の参加の下での、2年ぶりの研究会開催に期待を寄せる気持ちでいっぱいです。くにさき地区校長会は、令和元年度の佐伯大会、昨年度の大分大会を引き継ぎ、早くからその準備を行ってきています。そのご労苦に感謝するとともに、大会の成功を祈りつつ、今後の取組を連携して進めて行きましょう。

教師の役割に「つなぐ」ということがあります。子どもと子どもをつなぐ、考えと考えをつなぐなど、教育活動を展開する上で「つなぐ」という行為は、意識的にも無意識的にも多々あるはずです。

私たち校長は、どうでしょうか。学校と地域や保護者をつなぐ役割が校長にはあります。校内の組織化が、教職員同士をつなぐということです。広く見ていけば、互いの実践を交流し合い、生産点や課題についての意見交換を行うことを通して、県下各小学校の校長同士もつながっていききたいものです。その大きな場が、11月のくにさき大会です。実りある場にしていきたいと思います。

本年度の学校教育は、大きな転換点を迎えています。その一つが、GIGAスクール構想です。環境面や教職員の技能的な面での課題を残しつつ、スタートを切りました。端末を活用しての授業改善や工夫の見える実践など、今後の取り組み方にはいろいろと想定がされています。ICTの活用や近い将来のAIの登場などは手段として捉え、学校教育の目的は何かをふれずに持ち、手段と目的とがしっかりとつながるよう見据えていかなければなりません。

時代の変化のスピードは速くても、腰の据わった学校経営を行うことで、校長としての理念と指導性を明らかにし、校長同士のつながりも再確認していきたいものです。

大分県小学校長会発展のために、本年度もよろしくお願いたします。

とよ

- ・新たな働き甲斐と教師像の転換地点…………… 1
- ・九小協福岡大会のまとめ…………… 2～3
- ・活力ある学校づくり…………… 4～5
- ・学校紹介…………… 6
- ・新任校長の決意…………… 7
- ・雑感、編集後記…………… 8



「下ノ江駅」

白杵市立下ノ江小学校
校長
野田 公博



新たな働き甲斐と 教師像の転換地点

大分県小学校長会
副会長 石川 照代

「楽しかったですね!」「またしたいね～」そう言いながら校長室を出ていく職員たち。時間にして僅か30分ほど。「中間面談」として行った5～6名ずつの「年代別グループ面談」でのごことでした。年代別は、「キャリアステージ別」と言い換えることができます。同じ年代だからこそ共感できる思いや願い、夢があります。弱音も愚痴もあるでしょう。学年の枠を超えて語り合う職員たちは、何かホッと肩の力が抜けた様子で、冗談が飛び出し、大笑いするグループもありました。仕方のないこととはいえ、インフォーマルなコミュニケーションの機会が奪われて1年半以上、職員たちは、こちらが思う以上にストレスを抱え、きつい思いをしているのだと感じました。

さて、それから半月ほどした頃、雑然とした我が家の書斎に放り出していた某月刊誌の9月号と10月号。その表紙の大きな文字が目飛び込んできました。特集記事であるタイトル「月曜日に行きたくなくなる職員室づくり」「校長先生、その『働き方改革』でいいんですか?」ドキリとしました。そして、直ぐに思いました。「我が校の職員室は、月曜日に行きたくなくなる職員室だろうか」「我が校の『働き方改革』は正しいのだろうか」記事の一つ「職員室ホンネアンケート」に、「ビジョ

ンを語れない管理職は、仕事の効率しか考えないので、おもしろくない」という、手厳しいものがありました。勿論、「働き方改革」は、単なる仕事の効率化を指すものではありません。そして学校は、職員にとっても、行きたくなる「おもしろい場所」でなくてはならないと思います。

では、教職の働き甲斐やおもしろさはどこにあるのでしょうか。かつて、時間をかけてプリントを手作りしたり、児童のノートを何十冊も持ち帰り丸つけしたり、電卓を何度も叩いて平均点を出したりしていた時代がありました。その忙しさを「働き甲斐」に感じてきたところもあるでしょう。しかし、そういったことは、これからは全てAIがしてくれます。ものの数秒で一人一人の子どもの弱点を洗い出し、対策プリントまで提案してくれます。私(わたくし)の生活を犠牲にして、子どもに尽くす教師が、社会に期待される理想の教師像ではなくなりました。今、私たちは、新たな「働き甲斐」の発見、そして「新たな教師像」への転換地点に立っているのだと思います。

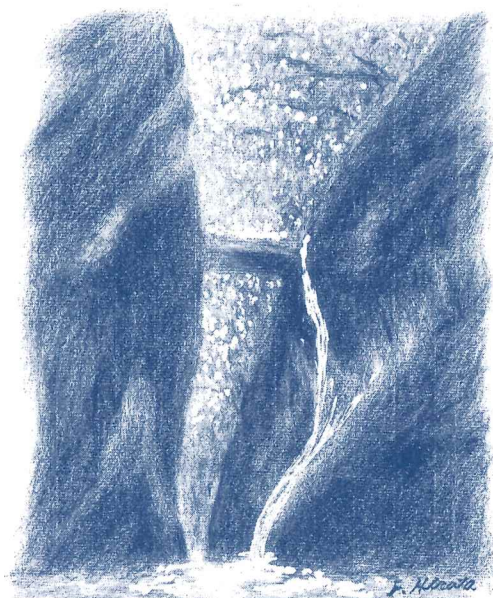
AIには真似できない「教師の存在意義」、それは、「生きている」ことだと思います。人間教師それぞれが、唯一無二の自分の「生き方」を背景に、目の前の子どものために育てることに意味があるのではないかと思います。ですから、「働き方改革」は、自分の「生き方」を見つめ、豊かにしたり、磨いたりするために必要なのだと解釈したいと思います。そのためには時間が必要です。熱く語り合える職員室が必要です。

校長もまた、自分を磨き、職員が「おもしろい!」と胸躍するような魅力あるビジョンを示していきたいものだと思います。

とよ

・「根っこ」にあるもの	1
・令和4・5年度「全国特色ある研究校便覧」大分県代表校の紹介	2～3
・全連小 石川大会のまとめ	4～5
・新任校長の1年	6
・今日的教育課題	7
・雑感、編集後記	8

由布市立挾間小学校
校長
清水 聡



由布市挾間町
「由布川峡谷」



「根っこ」にあるもの

大分県小学校長会
会長 小野 清 隆

学校経営におけるここ数年の特徴的なことを一つ申し上げます。何かといいますと、特別支援学級への在籍児童の増加（合わせて特別支援学級増）についてです。各校ではいかがでしょうか。「その子に合った学習環境」「その子の能力を引き出すための有効な指導の場」を、学校は保護者や子どもたちに提供する責任があります。とはいえ、特別支援学級への就学や措置替えのなんと多いことか。また、通常学級の中にも、個別の指導を必要とする子どもたちがいます。「がんばれ」という激励だけでは、決して救いにはなりません。

就学指導における特徴的な状況だけでなく、毎日登校してくる子どもたちに関わる諸々の問題の「根っこ」にあることとは、どのようなものなのでしょうか。家庭的な背景を抱えていることでしょうか。社会に渦巻く課題でしょうか。「子どもの心が見えない」というような教職員の嘆きを聞いたことはないでしょうか。

校内で問題が発生するたびに、その解決に向かう対処療法的な対応策だけでは、根本的な解決には至りません。もちろん、いろいろな事案に向かう際に、関係機関と連携することはありますし、その必要性は高い

と言えます。しかしながら、割と小さな課題や子どもの問題行動等が、日常的に発生している状況の打破は、こういった取組の繰り返しでは埒がきません。

一例として、スマホ等の利用による問題は、子どもたちの若い脳を破壊する危険性を孕んでいます。その使用が長時間になればなるほど、破壊は進む（学力の低下や“キレる”といった問題行動等への発展）というデータもあります。こういった問題を、家庭だけのこととして捉えていては、「根っこ」に何が潜み、どのような解決策を講じたらよいかの議論にはたどり着きません。無論、「根っこ」にある問題は、一つではありませんが…。

“脳の破壊”という現象は、「根っこ」にあるほんの一部にしかすぎないと考えます。今年度からスタートした「GIGAスクール構想」の取組においても、単に推進するだけでは、さらに問題を深くしてしまうばかりです。東京都町田市の事件は例外の部類に位置付けたとしても、これと近い状況に陥る危険性もあるはずです。タブレット端末を一つの“学習用具”として成立させるためには、情報モラルの徹底は勿論、（“脳の破壊”につながらないように）根本に迫っていく学習機会の設定や効果的な取組の構築の必要性も強く感じます。

加速度的に進行する社会変化に伴い、学校教育推進における変化の速度もさらに速まっていく気がします（もうすでに起きていますが）。様々な状況を憂慮するだけでなく、「根っこ」にある様々な課題解決に少しでも迫る教育の推進を、学校長が先頭に立って行うべきだと強く思います。

とよ

・“予測不能な社会”を予測する私たちの「未来予想図」は …	1
・令和4年度 大分県小学校長会研究計画(案) ……	2～3
・第62回大分県小学校長会研究大会 中津大会について ……	4
・研究活動紹介 ……	5
・先輩校長から ……	6
・令和4年度 大分県小学校長会役員 ……	7
・令和4年度 郡市校長会研究部長(小学校) ……	8
・編集後記 ……	8



国東市立国東小学校
校長

糸永敏明氏

「未来を担う
子どもたちのために」



“予測不能な社会”を予測する 私たちの「未来予想図」は

大分県小学校長会 会長 石川 照代

外国人旅行者に声を掛けられても怯むことなく、即座に「時計型端末」をタップしてイヤホンからの同時通訳で会話したり、田舎に住むおじいさんが、タブレットを操作し、ラジコン飛行機で果樹園に農薬を散布したり、帰省できない孫が等身大の3D映像で祖父母の目の前に現れ、結婚式のお祝いを言ったり…。こんなことができるようになるなんて、なんて素晴らしいんだろう！

昨年度の「第2回研究主任会」で講師に紹介された総務省の動画は、圧倒的なインパクトと説得力をもって私を揺さぶりました。近い将来、いやもう数年先には、こんな凄いテクノロジーが、当たり前のように手に入るのだと信じさせてくれました。そしてこれからの教育は、新たな通信システム5Gによって変わる社会「Society5.0」が到来しても、柔軟に受け入れ適応できる人間を育てることが求められているのだと理解しました。

私は暫くの間、この映像が頭から離れませんでした。近未来が舞台の映画を見た後のような余韻がありました。ところが日が経つにつれ、刻々と更新される多種多様な情報によって、「現実」とのあまりのギャップに、ある思いをもつようになりました。

どんなに最先端の素晴らしいテクノロジーも、「生きている」からこそ使えるのだと思うます。「気候変動」は、地球環境や食糧の問題を生み、多くの人の命を奪う災害や飢餓を引き起こします。今すぐにでも、地球上の全ての命を守り、未来につなぐ知恵や努力について考えることが必要です。

また、あと20年もせずに、「今ある仕事の半分が無くな

る」と言われています。子どもたちは将来、生きていくために、どんな仕事で報酬を得るのでしょうか。おじいさんには、タブレット購入やICT環境の整備など、ラジコンを飛ばすのに必要な費用を自分で賄う「経済力」があるのです。ならば、本当に全ての人々が「Society5.0」の恩恵にあずかりながら暮らしていけるのでしょうか。

「これからの社会は予測不能である」と言われています。これを、「これからの社会はハイリスクである」と言い換えてみると、どうでしょう。今、子どもたちを前にして、私たちが思い描く「未来予想図」は、少し違ってくるのではないのでしょうか。

恥ずかしながら、2年前にその意味を知った「SDGs」は、現時点で私が思いつく「リスク回避」の切り札です。しかし、世界中の国が手を取り合い、2030年までに実現しようと掲げた目標は、遅々として進まないばかりか、16番目のターゲット「平和と公正をすべての人に」は、信じられないほど簡単に踏みにじられてしまいました。しかし、諦めるわけにはいきません。

やはり、これからの子どもたちには、Well-beingな未来を希求し、自分で考え、判断し、表現する力と、多様な人々と協働しながら生きていけるしなやかで逞しい力を、確実に身につけさせていく必要があります。

自分一人を考えていては、袋小路に迷い込むばかりです。大分県小学校長会が、リーダーとしての多様な考えや価値観、実践や経験を出し合い、自由に意見交流ができる、刺激的で充実した場となるよう、今年度も事務局員一同努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

とよ

・令和5年度政府予算案から	1
・九小協長崎大会のまとめ	2～4
・活力ある学校づくり	5
・学校紹介	6
・新任校長の決意	7
・雑感、編集後記	8

津久見市立堅徳小学校
校長
岩尾 恭輔氏



「眺め」堅浦の港より



令和5年度 政府予算案から

大分県小学校長会
副会長 栗 林 正 一

この8月に、令和5年度文部科学省概算要求が発表されました。新規事業や増額要求の事業から国の動向が推察できます。

昨年度より約3,500億円増の4兆3,589億円が要求されています。最も要求額が大きいのは、総額の35%を占める小学校35人学級やSSSなど支援スタッフに係る人件費です。他には、令和4年度の教特法改正に伴う研修体制システムを構築するための研修コンテンツの開発と研修を記録するための事業、配置された一人一端末を活用するための運営支援センターの設置やデジタル教材を活用するためクラウド環境を整備する事業、SCやSSW等を配置し相談体制を強化する事業、看護職員の配置など特別支援教育の充実に関する事業、部活動の地域連携や地域移行に関する事業、特別支援教室の改修や体育館の空調整備に関する事業が、新規または増額されています。

これらの事業は、全国連合小学校長会が、各県小学校長会の要望等を取りまとめ、文部科学省や

財務省等に提出している「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望書」の要望項目と重なっており、少なからず影響を与えていることが伺えます。また、本会も、毎年、県中学校長会と連名で「義務教育振興に関するお願い」を県教育委員会に提出しています。私は、事務局業務を行うことで、政府予算にも影響を与えるなど校長会が存在する意義を再認識できました。皆様にも、このことを広く知っていただきたいと思います。

ところで、個人的に、今回の事業で注目したのは、私の専門教科が体育であることや行政で学校安全担当の経験があることから、体育館の空調整備に関する事業です。国負担が、昨年度までの1/3から1/2となるなど厚くなっています。10年ほど前、東京都の小学校を訪問した際、体育館に避難所での運用も想定した空調施設が整備されていましたが、今回の増額は、避難所での運用や体育授業の熱中症対策を全国的に推進しようという意図があると推察し喜んでます。

問題は、国が半分負担しても、残りの半分を地方自治体が負担し予算化しなければ、絵に描いた餅で実現しないということです。地方自治体の限りある財源を有効に使ってもらうためにも、学校の省エネや資源節約に努めていきたいと思うのです。

とよ

・「顔」	1
・第62回 大分県小学校長会研究大会 中津大会 アンケート集約・総括	2～3
・大分県校長会事務局よりお知らせ	3
・令和4年度 第74回 全連小 島根大会のまとめ	4～5
・新任校長の1年	6
・今日的教育課題	7
・雑感、編集後記	8

豊後大野市立大野小学校
校長
矢倉 信 正



ふるさとのジオパーク
『緒方町「原尻の滝」』



「顔」

大分県小学校長会
会長 石川 照代

昨年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は、人物像の大胆な造形で人気を博しましたが、終盤、仏師運慶が、主役である北条義時に、

「おまえ、悪い顔になったな。」
「だが、まだ救いはある。おまえの顔は悩んでいる顔だ。己の生き方に、迷いがある。その迷いが救いのさ。」
「悪い顔だがいい顔だ。いつか、おまえの仏を彫ってやりたいな。うん、いい仏ができそうだ。」

と言う場面がありました。主人公の内面描写と共に、この時代の仏教思想の有様が、間接的・象徴的に表現されていて誠に秀逸だと思いました。

「いい顔」「悪い顔」とは一体どういう顔なのでしょう。「悪い顔になった」と言うけれども、見て、わかるものなのでしょうか？

校長を拝命して、初めての赴任先は、緑豊かな田舎の小さな小学校でした。着任早々のある日、地域にお住まいの女性先輩校長が、「今度ん校長はどげん顔をしちよるか見に来たんや。」と玄関先で職員に挨拶しながら、校長室に入って来られました。その声が聞こえていた私は、一瞬身構えましたが、すぐにありのままを見て頂くしかないと開き直りました。先輩は、しばらく歓談し、笑顔で帰って行かれました。その時の私は、どんな「顔」に映っただろうと思います。一方

の私は、気さくな中にも自信と威厳に満ちた先輩の「顔」に、完全に圧倒されてしまいました。

校長は、学校の「顔」と言います。生身の「顔」とは別の意味で、学校のイメージを左右する象徴的な立場でもあるという意味でしょう。そのことを意識していなければ、地域との連携はうまくいかないのではないかとさえ感じます。

私は、地域の会合には可能な限り「顔」を出し、一言でも二言でも言葉を発するようにしてきました。そして、自分という人間を知って頂くために、また、子どもたちの成長や職員の奮闘する姿を伝えるために、「校長室だより」を地道に出し続けてきました。

「おまえは、この学校を、この地域を、そしてもちろん、子どもたちを、どれくらい大事に思っているのか？」

そう突きつけられるのが「校長」という立場だと思います。

ぎりぎりのところで踏ん張っています。判断に迷うことも多いです。ドラマの中の主人公のように「悪い顔」とは言われたくありませんが、「生き方に迷いのある顔」が「いい顔」ならば、そんな顔には少し懂れます。

校長としての「顔」に責任をもち、迷いながらも前へ進む・・・「校長としての道」を、同じ立場に立つ仲間と共になら、手を携えて進んでいけるのではないのでしょうか。

今年度も、「顔」を合わせたの学びができなかったことは、大変心残りではありましたが、オンラインではあっても、悩みや課題を共有できる仲間と繋がっているという「実感」はもてました。

1年間のご協力、誠にありがとうございました。

とよ

・楽しく、笑顔あふれる学校に	1
・令和5年度 大分県小学校長会研究計画	2～3
・第63回大分県小学校長会研究大会 竹田大会について	4
・研究活動紹介	5
・先輩校長から	6
・令和5年度 大分県小学校長会役員	7
・令和5年度 郡市校長会研究部長(小学校)	8
・編集後記	8

日田市立大明小学校
校長
川 邊 功



秋風庵(左) 遠思楼(右)

資料提供：日田市咸宜園教育研究センター

日田市教育の礎「咸宜園」



楽しく、 笑顔あふれる学校に

大分県小学校長会
会長 栗 林 正 一

令和5年度がスタートしました。校長会会員の皆さまにおかれましては、平素から、自校の学校経営に加えて、本会の活動へのご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和元年12月から始まったコロナ禍による制約が、感染症法上の5類移行に伴い、ようやく解放されつつあります。安堵感とともに、今後の学校行事を、コロナ前の形に戻すのか、コロナ禍で得られた形で行うのかなど、手探り状態で検討されているのではないのでしょうか。

このコロナ禍の3年間は、本会の活動にも大きな影響がありました。そのような中、オンラインによる研究大会や研究部長会の開催など工夫しながら活動できましたのは、各郡市の理事や研究部長の皆さまのお陰と感謝しております。

今年度は、内容によってリアル（対面型）とデジタル（オンラインやオンデマンド）を選択した研修が行われていますが、本会としては、基本は対面型で会議等を実施したいと考えております。とりわけ、11月の「第63回大分県小学校長会竹田大会」は、4年ぶりに県下の小学校長会員の皆

さまに参集いただき、これまでできなかった校長間の情報交換や協議の機会となることを、大いに期待しているところです。

ところで、全国学力・学習状況調査に「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問項目があります。令和3年度の肯定的な回答の割合は、83.4%で、前年から-2.4ポイント低下していました。令和4年度は85.4%と若干回復しましたが、コロナ前の水準には戻っていません。

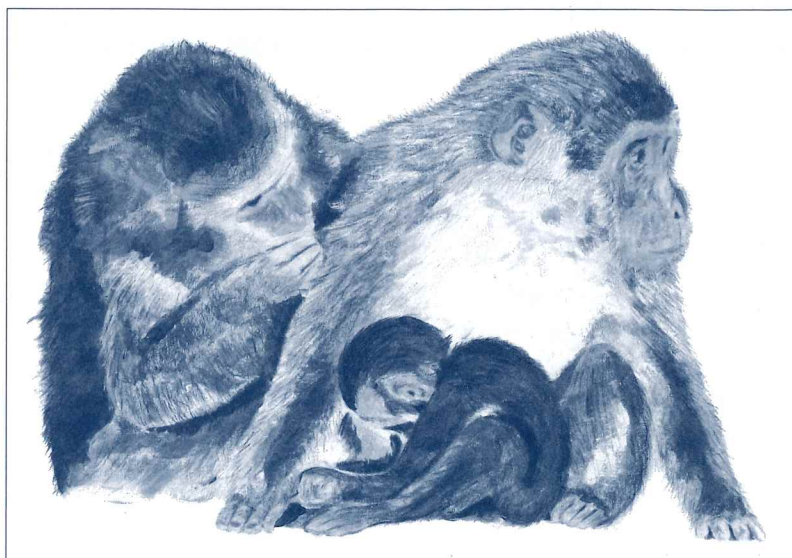
私は、すべての子どもにとって、「学校は、楽しく、笑顔あふれる場所」であってほしいと願っています。もちろん、楽しさの中身や尺度は、人それぞれかもしれませんが、学校生活の原点となる小学校では、特にそうあってほしいと強く思います。ようやく、マスクのない表情を見ながら、頭を近づけたグループ活動やおしゃべりしながらの給食などができるようになります。まずは、他学年や地域の方との交流や直接、見て、聞いて、触ることのできる体験活動などを積極的に提供し、「楽しく、笑顔あふれる機会」を創出していきたいと考えています。

学校現場では、授業改善、いじめ・不登校、特別支援教育、教員の働き方改革等々課題が山積です。特に、教員の不足と育成は喫緊の大きな問題ですが、すぐに解決できるものではありません。今の子どもたちが、「学校は楽しい」「先生になってみたい」と思えるよう、できることから行っていきたいと思います。

とよ

・「チーム学校」の実現に向けて……………	1
・九小協佐賀大会のまとめ……………	2～4
・活力ある学校づくり……………	5
・学校紹介……………	6
・新任校長の決意……………	7
・雑感、編集後記……………	8

大分市立敷戸小学校
校長 阿南 隆



はじめて女性がリーダーとなった
前B群ボスザルヤケイ



「チーム学校」の 実現に向けて

大分県小学校長会
副会長 山 元 一 哉

この夏、人生で初めて救急搬送を経験した。

その際、救急搬送に関わる救急隊員、病院関係者の手際の良さ、処置の丁寧さ正確さに驚かされた。何より感じたのは、患者の心理的不安に対するケアの厚さだった。現場でのストレッチャーから病院のベッドまで床の上をすべるようにスムーズに搬送される。何か行う際にはどんな細かなことでも声掛けがある。いろいろな情報は瞬時に共有され的確に対応される。常に命を預かる救急隊、病院の“oneチーム”の働きぶりに感激すら覚えた。

さて、私たち学校現場にも『チーム学校』が標榜されて久しい。2016年1月に出された文科省答申「『チームとしての学校』の在り方」には、その学校像として『校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発

揮し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校』とある。

本校においても、児童・保護者への心理的・福祉的専門職であるSC・SSWや事務仕事軽減のためのSSS、支援を要する児童に対する補助教員の配置など校内の状況は整ってきた。また、児相や病院等、学校外の専門機関との連携も間違いなくかわりが深く、多くなっている。

問題は、そのチームの働きによって、「教員がより教育活動に専念できているか」である。残念ながら昨今の教員不足もあり、未だ多くの業務を抱えたまま四苦八苦しているように感じるのは私だけだろうか。

コロナ禍が過ぎ、学校の教育活動は以前のような様相を取り戻しつつある。様々な体験活動やゲストティーチャーを招いての授業なども増えてきた。ICTの活用も軌道に乗りつつある。

ここで問われるのは、やはり校長のリーダーシップであろう。学校の教育目標実現のため、そして子どもに必要な資質・能力を育むため、学校の教育資源をいかに効率よく活用するか。私たちの手腕にかかっている。その職責の大きさを日々感じつつ、本物の“oneチーム”をめざして取組を進めていきたい。

とよ

・「失敗のすすめ」	1
・第63回 大分県小学校長会研究大会 竹田大会 アンケート集約・総括	2～3
・令和5年度 第75回 全連小 東京大会のまとめ	4～5
・新任校長の1年	6
・今日的教育課題	7
・雑感、編集後記	8

佐伯市立青山小学校
校長 川野 匡



「青山らしく仲良く飛び立つ、
地域・保護者合同
閉校記念の風船」



「失敗のすすめ」

大分県小学校長会
会長 栗林 正一

令和5年度も、あと2カ月を残すところとなり、第63回大分県小学校長会竹田大会を4年ぶりにフルスペックの参集型で開催するなど、今年度予定された大会や諸会議は、計画通り実施できる見込みとなりました。これも、これまでの各郡市の理事や研究部長をはじめ会員の皆さまのご支援・ご協力のお陰と、心から感謝を申し上げます。

さて、話は変わりますが、2019年にノーベル化学賞を受賞された「吉野 彰」先生をご存じでしょうか。携帯電話や電気自動車に欠かせないリチウムイオン電池を発明された方です。その技術は、これまでよりも大幅に軽くて大きな力を必要とした小惑星探査機「はやぶさ」のバッテリーにも活かされました。その発明の過程は、失敗の連続だったそうですが、「失敗しないと、絶対に成功はない。」「何度失敗しても、理由を考え改善することの繰り返しで成功につながる。」「失敗するのは当たり前」という話をインタビューで語っていました。

学校においても、子どもたちは、学習の中でいろいろな理由を考えたり、繰り返し書いて覚えた

りして、できるようになります。シュートを失敗した理由を考えて、うまくいくように練習します。子どもですから当然失敗しますが、乗り越えていくことで学び成長していきます。つまり、子どもたちに「失敗のすすめ」です。

一方、小学校に赴任して、先生方の中に「失敗させない文化」があると感じます。「遊具でけが人がでたら使用禁止。」「斜め掛けのカバンは首が締まるかもしれないので禁止。」「運動会などの行事では、時間をかけて準備し、安全面でも問題がないようにする。」「など、事前にレールを敷いて、できるだけ脱線させないようにする傾向のことです。

しかし、今の子どもたちには、予測不可能な時代を生き抜く資質・能力を育てていかなければなりません。ですから、私たちは、失敗させないようにするのではなく、失敗させないといけないのだと思います。失敗後のフォローが重要なのです。

また、アフターコロナの今年度は、いろいろな行事等の見直しが進んでいます。本校でも、失敗しても構わないから、単なる前例踏襲ではなく、「スクラップ&スリム」な企画提案をお願いしています。先生方にも「失敗のすすめ」です。

「成功は職員の功績、失敗は校長の責任」と言われます。失敗したらその時修正すればいいくらいの余裕と覚悟をもってチャレンジしていただきたいと思います。校長にも「失敗のすすめ」です。